

## ヨハネの福音書 6章 35-40節

私がいのちのパンです

6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。6:36 しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わたしはあなたがたに言いました。

6:37 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。6:38 わたしが天から下って来たのは、自分のところを行うためではなく、わたしを遣わした方のみところを行うためです。

6:39 わたしを遣わした方のみところは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。

6:40 事実、わたしの父のみところは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」

はじめに

ヨハネによる福音書は一つの目的で書かれ、その目的は、はっきりと記されています。

ヨハネ20:30「この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

つまり要約してみると、人々がイエス様を神の子キリストとして信じて、永遠の命を得るということがその目的、ということです。

誰かが初めて聖書を読みたいと言って来られる時、私はいつもヨハネの福音書から読むように勧めます。この福音書を代表する言葉は3:16節です。この節は“The Gospel in a nutshell. (きわめて簡潔な福音)”と呼ばれています。

3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

この中でも小さくて一番見逃しやすい言葉が一番深い意味を持っています。「ほどに～」という言葉です。この言葉は神様の私達に対する愛がどれほど深いかを示しています。神は「その一人子をお与えになったほどに、」私たちを愛して下さっているのです。人間の愛をはるかに超えているので、私達には想像がつかないような愛ですが、イエス様を信じる事によってその愛を経験する事が出来ます。

ヨハネの福音書の特徴の一つは、人間には言えない事をイエス様が述べた上で、実際にそれを行い、その行いによって証明した事を記録しているという点です。実際にイエス様が言うことを聞いた人々の中で、イエス様に敵対していた人々でも、次の事を認めざるを得ませんでした。

ヨハネ7:46「役人たちは答えた。「あの人と話すように話した人は、いまだかつてありません。」もちろん、これからも、一人も現れる事はありません。イエス様は唯一の神のひとり子であり、唯一の人類の救い主です。

1. イエス様は自分が永遠の神だと言われている

v35節には、「わたしがいのちのパンです。」とあります。この福音書では、いのちという言葉は永遠の命を意味します。

先ずこの箇所イエス様は自分が神様だとはっきり言って、自分を信じる人に永遠の命を与える約束もしています。この御言葉を表面的に見ただけではわかりませんが、聖書の原語で調べてみると、はっきり分かります。イエス様は自分に対して神様の名前を使うことによって、自分が神様だ、と言っています。

ヨハネは自分の見た沢山の奇跡の中から、7つだけを選んでこの福音書に記録したように、イエス様をご自分に対して神様の名前を使い、「私は何々です。」という場面も7つ記録しています。今日の箇所はその最初の場面です。もう一箇所と比べて見ましょう。

ヨハネ8:58-59. 「イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」 8:59 すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。」

アブラハムはイエス様の生まれる2000年ほど前に生きていた人物なのに、イエス様はその前から「私はいる。」と言っています。この箇所にも神様の名前を使っていますから、「私はいた」と言う過去形ではなくて、私は永遠に存在している神様だ、とはっきり言っているのです。それを聞いた人々は信じられないだけではなくて、その場でイエス様を死刑にしようとしたしましたが、出来ませんでした。イエス様は神様の定めた時にご自分から、私達の罪の為に命を捧げて下さいましたが、その時までには、彼らが何度も殺そうとしても出来ませんでした。

日本語聖書の訳では分かりにくいかも知れませんが、イエス様はここでご自分に対して旧約聖書にある神様の名前を使っています。

出エジプト記3 : 13-14 「モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」 3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある。』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』と。」

イエス様はこれと全く同じ言葉を使って私はいのちのパンですと言いました。その当時、それは国の法律で冒瀆罪に当たり、その刑罰は石打死刑でした。もう一箇所を見るともう少し分かりやすくなるでしょう。

2 .イエス様は完全に満足させると言われている

V35 「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

もちろん、これは体の飢え渴きではなくて心の飢え渴きについて話しています。「私に来る者は決して飢える事がなく、私を信じる者はどんな時にも、決して渴く事はありません。」ここでイエス様は明確な言葉で完全な満足を約束しています。いのちのパンの話ですから、決して飢える事はない、と終わっても十分ですが、その上に「私を信じる者はどんな時にも、決して渴く事はない」と付け加えています。別の箇所でも、心の飢えだけではなくて心の渴きを完全に満足させる事について述べた上でその意味を説明しました。イエス様はこの箇所で、井戸のある場所で話していました。

ヨハネ4:13-14. 「イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渴きます。」しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」

イエス様の与えて下さる水は聖書で生ける水と呼ばれます。それは心の中で泉となり、自然に湧き出るようになって完全に満足させて下さいます。6章に戻ってみましょう。6:35節の続きとして次々と素晴らしい約束が記されています。

6:37 「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」

イエス様のもとに来る人は100%の確率で受け入れられます。「私のような人間でも受けられるのでしょうか？」と考える必要はありません。ここでこの聖句の約束の前半にある言葉の意味を説明する必要があるでしょう。

「父が私にお与えになる者は皆、私のところに来ます。」とあります。自分の意志だけでイエス様のもとに来る人はいません。最初は神様が自分の上に働かされている事に気が付かないで、自分の思いや自分の意志だけでイエス様を信じたいから信じた、と誤ってしまいます。でも、イエス様はさらに44-45節にはっきり説明して下さっています。

6:44-45 「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。6:45 預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる。』と書かれています。父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに来ます。」

44節の意味は、自分が気が付かないうちにも神様がイエス様を信じるように私たちに引き寄せて下さっていて、それがなければ、イエス様を信じたいと言う思いを持つ事ができないという意味です。ですから、イエス様を信じたい思いがあるうちにイエス様を受け入れるなら、絶対にイエス様に受け入れられます。何も待つ必要はありません。イエス様を信じて、イエス様を主として告白する人は、必ず神様の子どもとして受け入れられるのです。

6:45では、イエス様は旧約聖書の預言者の書を引用して神様の働き方を説明しています。聖書の解説書によると、二人の預言者が異なる表現で同じ内容を預言しています。

イザヤ書54:13. 「あなたの子どもたちはみな、主の教えを受け、あなたの子どもたちには、豊かな平安がある。」

エレミヤ31:34. 「そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。――主の御告げ。――わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

イエス様は最後の晩餐でエレミヤ書の同じ箇所について話して「杯を取ってこれは私の血による新しい契約です。多くの人の罪の赦しの為に流されます。」と言いました。

今日のヨハネ6章を最後まで読んだら、イエス様はここで初めて自分の裂かれる体と流される血を記念する聖餐式について教えたことがわかります。弟子達は最初は理解できませんでしたが、イエス様に従って行くうちに、後から理解を与えられました。信仰による救いと信仰によるすべての神様の働きは、最初のうちは理解出来ない部分があっても、信じて従ううちに理解が後から与えられます。この順序が大切です。

ヨハネ6:53-54. 「イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。」

6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」

もちろん、イエス様は実際の体と血を食べたり飲んだりする話をしていてはではありません。一番最初にイエス様が聖餐式について話をしていて、多くの弟子はこれを理解出来なかったため、イエス様から離れてしまいました。しかし、意味を分からないままでもイエス様に従い続けた弟子達は後でそれが分かるようになりました。

### 3. イエス様は永遠の命を与えられている

ヨハネ6:39-40. 「わたしを遣わした方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。

6:40 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」

イエス様はこの事を強く強調して、一人も失う事なく最後の一人の信者にまで永遠の命を与えて最後の日によみがえらせると断言しています。イエス様は一回も「多分」や「かも知れない」のような曖昧な言葉を使っていません。この福音書の1章1節からイエス様は生ける神の言葉として永遠に存在しながら、人間となって下さったことがわかります。

今日の箇所は、私達が最後まで自分だけで信仰を守り通すのではなくて、イエス様はその責任を担って下さる事を教えてくれます。天においても、地においても、全ての権威を持っておられるイエス様は最後まで最強の方として共にいて守って下さいます。その实例を見てみましょう。シモンペテロは3回もひどい言葉をもって完全にイエス様を否定してしまいましたが、その事が起きる前から事前にイエス様はペテロに「私はあなたの信仰がなくならないように、あなたの為に祈りました。」と言いました。

ルカの福音書22:31-32. 「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

イエス様は、私達の失敗によって私達を強めて、逆にその失敗によって他の人々を力をづける事が出来るように用いて下さいます。イエス様はペテロだけの為に特別扱いをした訳ではありません。イエス様は全く平等に全ての人を扱う必要がある方ですから、あなたにも私にも同じ事を言っているのです。「あなたの信仰がなくならないようにあなたの為に祈っています。」と。イエス様は自分の全ての信者の為に祈ってくださっています。

ヘブル人の手紙7:25 「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

イエス様の信者は最強の大祭司の祈りを自分のものにしてしています。全世界の祈禱師の祈りを全て集めてもイエス様の祈りとは比べ物になりません。

他の聖書の箇所にも繰り返して書かれています。

イエス様は私達の信仰の創始者でもあり、完成者でもあります。

ピリピ人1:6 「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。」

#### まとめ

ヘブル人の手紙13:8 「イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」

今日のタイトルも、3つのポイントも、わざと全部現在形にしました。1つめのポイントで見たヨハネ8:58で、「イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」と、イエス様はわざと現在形の動詞を使っています。永遠の神様なので現在、過去、未来、と言う時間による制限はありません。全ての言葉と約束は今も、私達の為に、生ける神様の言葉として存在します。これは不変の真理です。イエス様はまた別の場面でこう言われました。

ヨハネ14:6 「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

御心なら、また別の機会にこの御言葉を一緒に勉強しましょう。